様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2012～2013
課題番号：２４８２００２４

研究課題名（和文）２０世紀初頭のチェコ人の音楽作品における国境観の形成過程

研究課題名（英文）A formation of the view of national border in Czech musical works at the beginning of the 20th century

研究代表者
中村　真（NAKAMURA, Makoto）

大阪大学・文学研究科・研究員

研究者番号：５０６３８６５８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,500,000円、（間接経費）　450,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、19世紀末から20世紀初頭のボヘミアやモラヴィアにおけるチェコ人社会で創出されていたナショナリスティックな音楽作品や同地のチェコ人の間で伝承されていた民謡に関する理論的著作、そして彼らの民謡を利用して作曲された諸作品に見られる理念を扱った。本研究課題のもとで行った一連の研究は、多言語・多民族地域であった当時のボヘミアとモラヴィアにおける複数のナショナル・アイデンティティのありかたを研究してゆくための準備的な研究である。

研究成果の概要（英文）：This research project examines the idea of the musical and theoretical works which were published by Czechs in Bohemia and Moravia around the turn of the twentieth century. In this project I scrutinize the following works: works of art music which deal with themes firmly related to Czech nationalism of the period, theoretical works which analyze the musical aspects of folk songs orally transmitted by Czechs, and musical works in which the texts or tunes of their folk songs are utilized. These studies are preliminary attempts to further explore the conflict and coexistence of national identities in Bohemia and Moravia in the early twentieth century, the regions which were highly multilingual and multiethnic.

研究分野：芸術学

科研費の分科・細目：美学・芸術諸学

キーワード：ナショナリズム　チェコ　西洋音楽史

１．研究開始当初の背景

19 世紀から 20 世紀前半にかけてのボヘミアとモラヴィア（順に、現在のチェコ共和国の西半分と東半分にそれぞれ相当）でチェコ人が営んでいた音楽文化を論じる際には、チェコ人の視点のみを偏重した自民族中心主義的な音楽史記述をいかに克服すべきかという問題を避けて通ることはできない。ところが、チェコ人の音楽学者のみならず西洋音楽史の研究者においても地域を問わず広く共有されている音楽史記述からの影響によって、ボヘミアとモラヴィアにおける音楽文化の歴史を描くということがチェコ人による音楽の歴史を描くということを意味するようになっている。しかし、実際には、20 世紀前半までのこの地域には、チェコ語を第一言語とするチェコ人だけではなくドイツ語を第一言語とするドイツ系住民もまた多数住んでいたのである。彼らが独自に音楽文化を作り上げるとともに、互いに交流していたということも看過すべきではない。したがって、20 世紀以前のボヘミアとモラヴィアで営まれていた音楽文化を論じるに際しては、同地がこうした多言語・多民族状況に長い間置かれていたことを考慮することが必須となる。

1990 年代に入ると、それまで優勢を占めていたチェコ人の自民族中心主義的な視点を克服するための研究が次第に現れて来た。

こうした研究は次の二つに大別できる。一つは、楽曲の内在的な諸特性へ作曲家や当時の聴衆が付与していた音楽外的な意義のありように着目し、楽曲分析と言説分析を重視した研究である。もう一つは、多民族地域としてのボヘミアやモラヴィアの各地でどのようにしてチェコ人が自らの音楽文化とそれを支える諸制度を構築していたのかという社会史的な側面を重視したものである。先述したように、同地にはチェコ系住民だけではなくドイツ語を母語とするドイツ系住民も多数居住し、各地で複雑な民族問題を抱えていた。ドイツ人研究者たちは、1945 年にチェコスロヴァキア「第三共和国」政府によって追放されるまで同国のズデーテン地方に住んでいたドイツ系住民が営んでいた音楽文化を研究し始めた。一方のチェコ人研究者もまた、1990 年代後半にはシレジア地方（現在のチェコ共和国の東端に位置し、ポーランドとの国境地帯を形成している）の中心都市であるオストラヴァ在住のチェコ系住民が 19 世紀末から 20 世紀の前半に形成していった音楽文化に関する研究を劇場や音楽団体といった、音楽文化を支える制度に関する実証的な研究を行っていった。また、2010 年代に入ると、19 世紀のプラハにおけるドイツ系住民の音楽文化とチェコ系住民のそれとの関係を、当時のドイツ系やチェコ系の新聞や雑誌の記事を検証することや、双方の音楽文化の橋渡しをしていた音楽批評家が発表していた記事の検証を行うことを通して明らかにする試みが行われるようになった。

２．研究の目的

本研究の目的は、上記の研究成果を踏まえて、多民族社会であった 19 世紀末から 20 世紀初頭のボヘミアやモラヴィアにおいてチェコ人のナショナル・アイデンティティが芸術音楽のどのようにして涵養されていったのか――という問題の一端を解明することである。その際には、同地におけるチェコ人の音楽文化を可能とした社会制度に関する考察よりもむしろ、そうした社会制度が整えられつつある中でチェコ人の作曲家たちが発表していた音楽作品や音楽に関する著作が持つ内在的な側面に関する考察に重点を置いた。

３．研究の方法

上記の目的を果たすために、研究代表者は博士論文において取り上げた作曲家レオシュ・ヤナーチェク Leoš Janáček(1854-1928) による音楽作品や、モラヴィアの農村部に住んでいたチェコ人が伝承していた民謡に関する分析的な著作を中心軸に据えつつ、同時代に活動していた他のチェコ人作曲家による作品の研究も行った。研究を行う際には、次の点に留意した。

（1）ヤナーチェクの作品を取り上げる際には、当時のオーストリア・ハンガリー二重帝国の中でもとりわけ複雑な民族問題が生じていたシレジア地方のチェコ人を描いたものを扱う。

ヤナーチェクは、同地方出身の詩人ペトル・ベズルチ Petr Bezruč［本名: ヴラヂミール・ヴァシェク Vladimír Vašek］（1867-1958）の『シレジアの歌 *Slezské písně*』に収められた 3 つの詩に 1900 年代後半から 1910 年にかけて付曲した男声合唱曲を発表した。いずれの作品においてもプロイセンとの国境地帯であったシレジア地方に住んでいたチェコ人の苦境が描かれている。この意味において、この詩ではチェコ人のナショナル・アイデンティティの問題が実際の国境の問題とも関連付けて扱われているものと見なすことができる。

（2）音楽作品によってチェコ人のナショナル・アイデンティティを表現する際の重要な参照項の一つであった民俗音楽の研究や民俗音楽を利用した音楽作品の検証。この検証は次の 2 つに大別される。

①19 世紀後半から 20 世紀前半にかけて民俗学が制度化されてゆく中でチェコ人研究者が盛んに行っていた民謡や民俗音楽に関する研究の手法とその理念に関する検証。この問題を扱う際には、博士論文においても取り上げたヤナーチェクの民謡研究を中心に扱う。

②民俗音楽を編曲もしくは民謡の歌詞を利用して独自の曲が作られた音楽作品の内在的な諸特性と、こうした作品を支えている理念に関する検証を行った。

４．研究成果

平成 24 年度には、上記の観点から主として研究課題として掲げた問題を論じてゆくための基本的な準備として、次のような調査を行った。

(1) ボヘミアやモラヴィアにおける政治史、同地の文化史（とりわけ文学史）、そして音楽史について国内外で出版された最新の図書の購入ならびにその傾向の調査。

(2) 国内の図書館（北海道大学スラブ研究センター図書室）における所蔵雑誌調査。この調査においては、ボヘミアやモラヴィアにおける政治史に関する最新の雑誌論文の調査を中心に行った。

(3) 国外の図書館（モラヴィア図書館 Moravská zemská knihovna［ブルノ市、チェコ共和国］）における資料調査。この調査では、主として 19 世紀後半から 20 世紀前半にかけてのボヘミアやモラヴィアのチェコ人社会における音楽文化を再検証した最新の研究に関する情報のうち、主としてチェコ共和国国内で刊行された雑誌論文を中心に収集した。

平成 25 年度には、平成 24 年度に行った調査を踏まえて、多民族・多言語地域であった 19 世紀末から 20 世紀前半にかけてのボヘミアやモラヴィアのチェコ人の作曲家が音楽作品を創出したり民謡研究者が論考を著したりする際の理念の研究に重点を置いた。これを通して、彼らの作品や著作と「国民」のイメージとの関係がいかなるものだったのかという問題を考察することを目指した。

所期の目的を果たすために、次の研究に取り組んだ。

(1) ヤナーチェクによるシレジア地方在住のチェコ人を扱った作品と 19 世紀末から 20 世紀初頭における同地の状況について論じた文章での理念に関する研究（この研究成果の一部は、学会発表③で公表した）。

(2) 19 世紀末から 20 世紀前半のチェコ人の作曲家による民謡編曲や民謡研究者による研究手法と理念に関する研究。主として①ヤナーチェクによるモラヴィア民謡研究のうち、民謡の楽式に関する理論的考察が変遷する過程に関する研究（この研究成果の一部は、学会発表②で公表した）と、②ヴィーチェスラフ・ノヴァーク Vítězslav Novák(1870-1949)による民謡編曲作品の研究を平行して行った（この研究成果の一部は、学会発表①で公表した）。ノヴァークは、ドヴォジャークなどの先行世代が樹立した音楽語法と同時代のヨーロッパで活躍していたモダニストの音楽語法の双方から影響を受けながら作曲を行っていた。19 世紀末から晩年に至るまで、モラヴィアや隣接するスロヴァキアの民謡の旋律や歌詞を利用した作品を多数発表し続けていた。また、そのかたわらで、両大戦間以降のチェコスロヴァキア共和国ならびに社会主義体制が樹立されてからの同地において活躍することになる多くの作曲家を指導した。この点に鑑みると、ノヴァークによる民謡を利用した作品は、19 世紀後半に作曲された同種の作品と 20 世紀前半にモダニストたちが作曲した同種の作品との関係を検証するのに適している。

ヤナーチェクにせよノヴァークにせよ、作曲や研究の手法の新しさとは裏腹に、19 世紀前半のロマン主義的なナショナリズムから影響を受けたものであることや、当時の政治的なナショナリズムとは異質の理念が存在することが明らかになった。19 世紀後半のヨーロッパ全域で芸術音楽に携わる者の間で規範として暗黙のうちに見なされていた、ウィーン古典派とその後継者たちの音楽語法に由来する楽曲構造や、20 世紀前半のヨーロッパ各地の芸術音楽におけるモダニズムに対する意味付けという問題がそれである。

ヤナーチェクの初期のモラヴィア民謡研究においては、ウィーン古典派に由来する規範的な楽曲構造とは異質の楽曲構造を芸術音楽において樹立させることが芸術音楽の「民族性」を実現させるための方法であると見なされた。この規範的な楽曲構造を「仮想敵」として扱っていた時期が長かったが、晩年の民謡研究からはモラヴィア民謡に見られる楽曲の構成原理に見られる要素をすべての音楽のそれにも共通して見られるものと見なすようになり、芸術音楽における規範的な楽曲構造を「仮想敵」と見なさなくなった。

ノヴァークの民謡編曲においては、ヤナーチェクとは違って、ウィーン古典派に由来する楽曲構造や、20 世紀のヨーロッパ各地におけるモダニズムとの融合が目指されていたことが明らかになった。

本研究において扱った一連の作品や著作の理念を検証したところから明らかになったのは、一見すると断絶しているように見えるチェコ人音楽文化において 19 世紀後半に広く共有されていたナショナリズムと、20 世紀前半にそこで支持されるようになるモダニズムとをつなぐ、「ミッシング・リンク」としての意義も存在する、ということである。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 3 件）

① <u>中村　真</u>「国民音楽と前衛音楽とを結ぶ「ミッシング・リンク」と しての民謡編

曲――ヴィーチェスラフ・ノヴァークのスロヴァキア民謡編曲を手 がかりに――」（京都大学地域研究統合情報センター共同研究・共同利用プロジェクト複合ユニットおよび同個別ユニットでの発表。平成 25 年 09 月 23 日、京都大学稲盛財団記念館 3 階中会議室）

② 中村　真「民謡におけるドラマの記述――レオシュ・ヤナーチェク のモラヴィア民謡研究における楽式分類法――」（日本音楽学会第 64 回全国大会、平成 25 年 11 月 03 日、慶應義塾大学三田キャンパス）

③ 中村　真「歌で描かれた国境――レオシュ・ヤナーチェクのシレジアを扱った合唱作品とその周辺――」（文芸学研究会第 53 回研究会、平成 25 年 12 月 21 日、大阪大学文学部中庭会議室）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

［なし］

６．研究組織

(1)研究代表者

中村　真（NAKAMURA, Makoto）
大阪大学大学院文学研究科招へい研究員
研究者番号：５０６３８６５８

(2)研究分担者

［なし］

(3)連携研究者

［なし］